

竹細工がアートになる

えちぜんたけにんぎょう

越前竹人形 (福井県指定郷土工芸品)

やまぎし こうおん

山岸 高音 [福井県坂井市]

古くから越前の地では、農閑期の手職として花器や籠などの竹細工が作られていました。人形作りも行われていましたが、全国的に知られるようになったのは、福井県出身の水上勉氏の小説『越前竹人形』(1963年、中央公論社)のヒットがきっかけです。またあわせて、師田保隆・三四郎兄弟が郷土玩具としての人形作りを発展させ、竹の素材を生かした能楽や歌舞伎の意匠などによる独自の作品で高い評価を受けました。竹の節、色、直線と曲線を生かした人形は、年を経るごとに飴色へと変化し、温かな風合いを帯びます。山岸さんは、伝統的な技術を継承、生かしつつ、これまでにない作品を生み出しながら、温もりのある竹人形の良さを子どもたちにも伝えていきたいと熱く語ります。



●「ディステニ(運命)・女神」

第74回(2023年) 福井県総合美術展 工芸部門 審査員特別賞



●「contrabass」

コントラバスを奏でる少女。音楽が人形の周りではじけている。



●「福猫」

打ち出の小づちをもった少女型の招き猫。きっと幸せがやってくる。



●「murasaki」

オオムラサキを基にした蝶の妖精。髪の毛一本一本に神経を使う。あえて顔はリアリティーを出さないという。



●竹人形が心和むアートに生まれ変わる。

山岸 高音
福井県坂井市丸岡町

山岸 高音 越前竹人形作家

- 1967年 福井県福井市生まれ
- 1987年 京都嵯峨美術短期大学卒
- 1996年 師田黎明(もろたれいめい)氏、内田勝生(かつみ)氏に師事し、越前竹人形を学ぶ
- 2007年 TVドラマ「竹人形殺人事件」(フジテレビ)にて竹人形作品が活用される
- 2009年 市美展ふくい エフエム福井賞 受賞
- 2010年 アート・ナウKANAZAWA第49回北陸中日美術展 入選
- 2013年 大阪の福井県人会で「竹という植物と越前竹人形講座」講師を務める
- 三軌展(さんきてん) 入選
- 2014年 市美展ふくい FBC賞 受賞
- 2023年 第74回(2023年) 福井県総合美術展 工芸部門 審査員特別賞 受賞

Instagramは
こちらから